



## 巨人伝説 (通歴篇)

巨人伝説 (通歴篇)  
笠井 深  
徳間書店 (新書)  
(7/31刊) ¥680

ツァラ英雄伝説の第二部。実際は、第一部が第二部より後に (SFA誌上で) 発表されていたので、若干の補筆訂正がなされている。全六部の中篇連作、各々、ツァラ対暗黒神ガゴールの闘いが描かれている。設定は古代の神話時代だが、第一部同様、農耕文明 (||暗黒神)、狩猟文明 (||光明神) の対立という、特長ある図式に変化はない。本来豊饒を約束されたはずの狩猟生活を捨て、苛酷な農業へと人類を駆り立てたのは、異星の干渉を受けた結果なのだという設定。——いわゆる反文明の象徴である蛮人は、それ自体ヒロイックファンタジー伝統の人物像で、少しも新味はない。しかし、現代文明の成り立ちそのものを対立点に持つツァラは、かなりユニークなキャラクターだ。そこを外すと、巨人伝説に含まれる作品群は、単純な暗黒対光明の闘いにすぎなくなってしまう。ともかく、主人公は怪力無双、向かうところ敵なしではあるものの、敵の力はさらに強力で、押し寄せる農耕文明の波は、ついに消え去ることはなかった。かくして、物語は第一部の現代へとつながる。第一部から読むと、ツァラの強さもそれほど違和感を残さない。その点がミソ。

(俊)